

十日町新聞



環境保全で講演する田中氏

省エネ・自然エネルギーで環境対策を

環境対策協が田中優氏を講師に招き

平成21年度農地・水・環境保全向上対策十日町地域協議会が主催する「地球環境を見据えて、私たちがすべき地域づくり」と題した講演会が24日、クロス10中ホールで開催された。

同協議会の須藤誠也会長は「平成19年から活動を開始した協議会であるが、各地域で独自の活動が展開されている。今日は最も注目されている講師をお招きした。田中優氏は大変な売れっ子で、二日に一回は講演している。先生の話をお聞きして、我々の農地や水、環境はこれで良いのか真

剣に考えよう」と挨拶した。

田中氏（プロフィールは社説に掲載）は現在の世界の油田がピークを過ぎたと、専門家予測よりもピークオイルが5年ほど早まったと伝え、CO2の削減のために省エネ対策と自然エネルギーの活用が重要と説いた。CO2の削減に対して各家庭で出来ることは効果が低く、産業が排出する量が圧倒的に多く、特に電気事業者が全体の28%を占めているとした。

アメリカの「スマートケリット」送電システムで、日本の太陽光発電パネルや蓄電池が使われていると話した。

地域の取り組みとして足立区東和商店街の学校給食の受託と食材の供給さらには区の敬老祝い金を地域共通商品券に変えて発行したケース、小さな個人や団体の新たな試みに融資するNPOバンクが効果を発揮し、メタンガス事業に発展したケースを示し、地域の取り組みにより、省エネ、自然エネルギーの活用が可能であると言き、環境保全への活動を薦めた。